

- 諫早市高来地域(旧高来町)は、多良山麓を背に扇状の傾斜地と裾野に広がる平坦地からなり、高齢化・兼業化が進む地域である。
- H22年度に、**地元有志で「幻の高来そば振興協議会」を設立**。地域普及課では、この「そば」をキーワードに、**農山村資源の保全活動と地域ビジネスの創出を支援する取組を事業化**(H23～25)
- 地域連携組織を設立し、ワークショップを機に新たな活動が始まった。

具体的な成果

1. 地域連携組織の設立

- 旧町内の各組織に声をかけワークショップによる課題の明確化を図った
- ① **連携組織**(そば協議会、猟友会等 **18組織**・・・拡大中)
- ② 支援チーム(市・JA・農委・商工会・県等)

2. 耕作放棄地対策と有害鳥獣対策

- モデル集落を設置し、優良事例集の作成による地域波及を目指している
- ① **防護柵(WM)の設置** (H24,12現在) **18.6km** (H25目標の137%達成率)
- ② **NPO法人と受託組織の連携**により、そばを作付けし、**耕作放棄地5ha解消**

3. そばのブランド化

- 新そば祭りの開催による消費拡大と地域活性化に寄与
- ① **来場者数(3000名以上)**
- ② **出展協力(2組織→11組織)**
- 採種圃の設置による種の統一化を図っている
- 農業生産法人「(有)たかき」が「幻の高来そば」などで**6次産業化認定**

4. 特産物の作付推進

- こんにやく加工所では、地場産の芋の確保が困難になっており、展示圃設置や町内作付協力者の掘り起こしを始めた。

5. 受託組織の育成と活用推進

- 高齢化・兼業化が進む中、人・農地プランに位置づけ活用推進を図っている。

6. 体験プログラムの開発

- 山歩きやそば打体験などのバスツアーを企画・運営し交流人口の拡大を図っている。

普及指導員の活動

平成22年度

- 地元有志で、「幻の高来そば振興協議会」を立ち上げるに当たり、助言と現地研修会等の支援
- そば脱粒機・乾燥機の導入支援

平成23年度

- 「ながさき農山村活性化支援事業」のモデル地域として旧高来町を選定
- 地域連携組織、支援チームによるワークショップを開催。**組織ごとの課題や組織間の連携項目を明確化し共有化**を図った。
- **3年後の目標を設定した「高来地域活性化計画」を樹立**。

平成24年度～

- 「耕作放棄地」「有害鳥獣対策」「高来ブランド確立」「グリーン・ツーリズム」の**4つの分科会を作り、実践活動を始めた**。
- 設立当初より連携組織、支援チームが拡大し活動の幅が広がってきた。

普及指導員だからできたこと

・市・JAをはじめ、農業委員会、商工会、コンベンション協会など**関係機関の橋渡しや、地域リーダーの掘り起こし、ワークショップ手法など地域振興のコーディネート力を発揮**したことで、地域自らがビジョンを立てることが出来た。

・そばの採種圃やこんにやく展示圃など担当普及指導員だけでなく普及OBや試験場などの協力を得て、**地域に適した栽培方法を提案**出来た。

1. 取組の背景

長崎県諫早市高来地域（旧高来町）は、多良山麓を背に扇状の傾斜地と裾野に広がる平坦地からなり、高齢化・兼業化が進む地域である。

そのような中、耕作放棄地を解消するなど環境保全活動を行うNPO法人や直売所、ツーリズム協議会などがそばの作付や販売、体験受入など取り組んでいた。そこで、諫早地域普及課では諫早市と連携し、この「そば」を起爆剤に、農山村資源の保全活動と地域ビジネスの創出を支援する取組みのモデル地域として事業推進を図っている。（H23~25）

2. 活動内容（詳細）

〔平成22年度〕

「金崎そば」と称して先祖代々継承しながら蕎麦の栽培に取り組んでいる地域があり、地元有志が発起人となり平成22年に「幻の高来そば振興協議会」を設立。地域普及課では市と連携して戸別所得補償制度説明会や栽培講習会を実施。また、6次産業化に関する事業推進を図った。

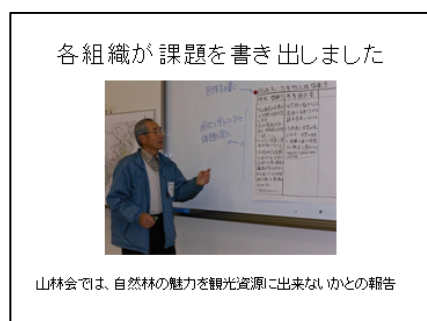
〔平成23年度〕

長崎県では、県内各市町において農山村資源の保全活動と地域ビジネスの創出を支援する取組を事業化。地域普及課では、市・JA等と連携し、実践するモデル地域として「旧高来町」を選定。

まずは、そば協議会や直売所、NPO法人、猟友会、ツーリズム協議会の代表による準備委員会に連携組織の立ち上げを依頼。委員の呼びかけで18組織による「高来地域活性化協議会」が設立された。

ワークショップによる各組織の課題や目標が明確化され、組織間で連携できるテーマの抽出もできた。

関係機関による支援チーム会と活性化協議会役員で「高来地域活性化計画」を作成。「環境保全活動（耕作放棄地対策・有害鳥獣対策）」と「産業振興活動（ブランド化やGT）」に分けて3年後の目標設定を行った。



<ワークショップ>

〔平成24年度〕

「地域活性化計画」で課題を明確化し、支援チーム会のメンバー拡大を図った。（諫早市の農業振興課・有害鳥獣対策室・農業委員会・商工観光課・高来支所産業建設課・総務課、JA、諫早市観光物産コンベンション協会、商工会高

来支所、諫早地域普及課)

テーマ毎に支援チーム会で方向性を協議後、役員を中心に実践活動へとつなげていった。

活動が浸透し始め、連携組織数もさらに増えてきた。

3. 具体的な成果

(1) 耕作放棄地対策と有害鳥獣対策

上記2対策を一体的に取り組むモデル集落を設置することとした。

支援チームによる現地踏査後、集落座談会で状況報告し、集落一丸となって耕作放棄地の現状、鳥獣被害の状況の点検を行い、防護・棲み分け・捕獲の総合3対策を推進している。

モデル集落には、猟友会会長もおり、特区の働きかけも行っている。

また、高来町全体として、NPO法人が「耕作放棄地復旧保全・景観向上促進事業」を導入し、受託組織がそば等の作付を行い耕作放棄地の解消も行っている。



<NPOによる耕作放棄地解消>

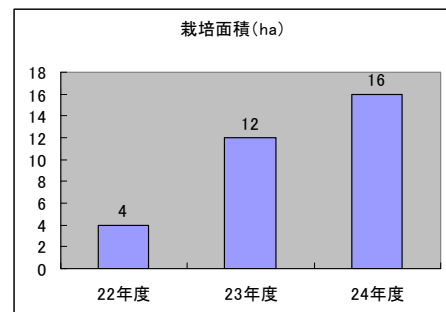
(2) そばのブランド化

「幻の高来そば振興協議会」は設立当初、会員数40名、栽培面積4haであったが、H24は、80名を超え面積も16haと年々拡大している。

また、展示圃を設置し異品種の抜き取りなどを行い種子の保存・統一化を図っている。

直売所を運営している有限会社は作業受託も請け負っておりそばの脱粒機・乾燥機・製麺機も導入。また、H24年6次産業化事業計画の認定を受けた。

消費拡大に向けたイベントとして、「新そば祭り」を12月に開催している。3年目の今年は、組織間の連携が強化され、そば協だけでなく商工会、直売所、トラック市も参加、さらに婦人会などによる演芸大会など地域活性化にも貢献している。



(3) 特産物の作付推進

町内には2箇所のこんにやく加工所があるがワークショップで芋の確保が年々厳しくなっていることが判明。展示圃設置や町内の栽培者の掘り起こしを

始めた。

(4) 受託組織の育成と活用推進

町内には、作業受託組織が3法人あり、人・農地プランに位置づけた。今後さらに利用者の拡大を図る為、情報発信を行う予定。

(5) 体験プログラムの開発

本地域には、轟峡に代表される水量豊かな溪流や巨木の森が広がっている。そこで、ツーリズム協議会、山林会、直売所と宿泊施設などが連携し、山歩きや「幻の高来そば」を使ったそば打ち体験などのバスツアーを初めて企画・運営。町内への交流人口の拡大をねらった取組を始めている。



<体験ツアーのチラシ>

4. 農家等からの評価・コメント（高来町A氏）

高来町には、幻の高来そばや名水米、こんにやくなど先代から受け継ぎ伝えてきたものに日の目を与えてもらい感謝。また、高来町の豊かな自然を生かしたバスツアーなどこれからの活性化にどのように繋げていくか今後も助言頂きたい。

5. 普及指導員のコメント

（県央振興局諫早地域普及課 専門幹 船場緑）

地元の有志が、「金崎そば」のすばらしさを地域活性化につなげたいという想いを、県の事業を活用し関係機関が一丸となって支援する体制作りに力を注いだ。地域の各組織がビジョンを共有化したことが、実践活動につながってきたと思われる。

6. 現状・今後の展開等

「ながさき農山村活性化支援事業」という県単事業を活用し、H23年度は、問題点や課題の把握、連携できるテーマの掘り起こしを行い、3年後の目標を設定した「高来地域活性化計画」を作成。2年目の今年度は、その課題に対する実践活動を展開した。その反省点をふまえ3年目のH25年度は、環境保全活動に取り組むモデル集落の優良事例を取りまとめ地域波及を行い、そばの振興やツーリズム活動による経済効果を生み、その後の自主的な活動として定着を図りたい。